

○12番（斉藤政雄君） 議席12番の斉藤です。私ごとですけれども、多くの皆様に支援を受け、50年近くになります。本日ご出席の皆様、またその間多くの諸先輩の皆さんにご支援、ご鞭撻、また多くの協力をいただき、50年目に入りました。改めて感謝を申し上げます。

私になったときは、ちょうど橋本正士町長でありました。橋本町長は、各小中学校にプール、各小学校単位に幼稚園。そして、文化村にはプール、運動場、野球場、体育館、武道館と多くの事業をしていました。特に当時を振り返ってみますと、先ほども枝さんのほうから出たようでございますが、公共料金はもちろん、そのとき私がすごいなど。まだ26歳でありましたので。というのは、境町全体に水道事業を発注した。当時とすると、皆さんご存じのとおり50年前ですから、10年や20年前の水道工事の発注ではありません。そういった時期でありました。そして、昭和、平成、令和と過ぎましたけれども、現在の境町の町長は橋本正裕町長であります。橋本町長は、文化村にサッカー場、アーバンスポーツパーク、そしてテニスコート、小児科医療、そして高速バスの駐車場と、文化村の付近にいろんな事業を発注しております。今、この近辺の市町村におかれては、境町ってすごいよねと声が多く聞かれている状態であります。

私たち議会も、研修、視察をしています。佐賀県みやき町のPFI、そして一戸建て住宅を取り入れ、境町に多くの人をとということで、先ほど染谷直人君のほうから質問ありました。この事業が我々も、先ほど言いましたけれども、研修しました佐賀県みやき町を取り入れて、今橋本町長は境町に多くの人を移動させて、境町に住んでおります。先ほどの説明から聞きますと、もしかすると1,000人以上の人が境町に移動して住んでいるのかなと思われます。これからもまだまだこういった建物を町長は建てると言っていますので、もしかすると1,000人、2,000人と多くの人が境町に来るのではなかろうかなと思います。

そのとき私が考えたのは、この人たちが境町に住んで僅かな年数のときに、来年我々の選挙がございます。1,000人近く、いや、2,000人近くの人が境町に来て、今までいた人は境町は分かりますけれども、1年や2年の感じで境町をどうしようかとしたときに私は考えると、今回質問をしたのは、変えられないものは変えられないというのはありますけれども、選挙日について、投票所を日曜日としていますけれども、日曜以外の日にできないものかと。というのは、私たち地方議会の末端は、今までは月曜日から日曜日の投票でございます。そうしますと、どうしても今多くの方がサラリーマン化しておりますので、8時から5時の間、もちろん7時もありますけれども、その辺で幾ら私たちが遊説に走っても人に会いません。いません。そうすると、先ほど言いました1,000人の人たちが、それ以上の人たちが、私たちがその場で何を訴えても、多分うちにはいないのではないかなと思います。そういったことを考えたときに、やはりできるものであれば投票日をちょっと変えてもらって、その5日間のうちに土曜、日曜を入れてもらえればそういった新しい境町に住んだ人たちに対して我々が訴えることもできるのかなと思い、今回町のご意見をということで質問しております。

また、高齢者に対してもそうですけれども、10年前は、我々の時代のときは子供と一緒にいた家族が多いのですけれども、コロナ関係から見ると、やはり子供たちがよそにいて、1人家族、2人家族で住んでいる人が多くなり、特に80歳を過ぎると子供たちに、お父さん、できれば運転しないようにしてもらいたいなといった声が多く聞かれ、子供たちと一緒に住んでいるときは何となく自動車ぐらいいいなのではないかという気持ちがあったと聞いておりま

す。しかし、一緒に住んでいない子供に、お父さん、免許返納してもらえないかと言われますとやっぱり考えるそうです。そういった形になると、高齢者の人たちは選挙に行くことさえなかなかできません。一つの例として、猿島地区の大歩という場所に公民館があるのですが、私の地元から大歩の公民館まで80過ぎている人が歩いては投票に行きません。そういったことを考えたときに、町では有権者に対して支援策というものを考えているのかも質問をしております。

そして、こればかり言ってもしょうがないので、各年齢ごとに有権者どのぐらいいるのかなということで、それについても質問をしております。

1番の選挙については終わりますけれども、第2の行政区加入については、私も最近一人暮らしになりましたので、いろんなことが、年寄りと言っては怒られてしまいますけれども、私も75歳ですから年寄りなのですから、斉藤議員も一人暮らしになって分かることができたでしょうと言われていろんな形で考えることがありまして、今回は行政区加入という形で、1人世帯の加入状況についてどのぐらいいるのかなということで質問しております。よろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） 最初に、選挙についての質問に対する答弁を求めます。

選挙管理委員会書記長。

〔選挙管理委員会書記長 関根多恵子君登壇〕

○選挙管理委員会書記長（関根多恵子君） 改めまして、皆さんこんにちは。事前通告に従いまして、斉藤議員の1項目め、選挙についての1点目の年齢ごと、18歳から19歳、20歳から29歳、30歳から39歳、40歳から59歳、60歳から74歳、75歳から79歳、80歳以上の有権者数について伺いたいとのご質問にお答えをいたします。

直近に執行された選挙の年齢ごとの有権者数等についてご説明申し上げます。令和4年7月10日執行、第25回参議院議員通常選挙時の年齢別有権者数は、18歳から19歳で計475名、うち投票者数は160名、投票率33.68%でございました。20歳から29歳で計2,166名、うち投票者数は578名、投票率26.69%でございました。30歳から39歳では、計2,430名、うち投票者数は808名、投票率は33.25%でございました。40歳から59歳で計6,272名、うち投票者数は2,798名、投票率は44.61%でございました。60歳から74歳まで、計5,298名、うち投票者数は2,870名、投票率は54.17%でございました。75歳から79歳で計1,376名、うち投票者数は736名、投票率は53.49%でございました。80歳以上で2,070名、うち投票者数は687名、投票率は33.19%でございました。全年齢区分の有権者は2万87名、うち投票者数8,637名、投票率は43%という結果でございました。

続きまして、2点目、選挙期日について、投票日を日曜日と設定している選挙が多いと思われるが、日曜日以外の曜日を投票日とすることも可能であると思われる。広く立候補者の政策を知っていただくため、投票日を月曜日とすることは可能であるか見解を伺いたいとのご質問にお答えをいたします。

1として、投票期日の決定についてご説明申し上げます。投票期日につきましては、公職選挙法第33条の2第2項により、統一再選挙または補欠選挙において、一定期間内にこれを行うべき事由が生じた場合には、4月の第4日曜日、10月の第4日曜日にそれぞれ投票期日とすることが規定されておりますが、それ以外の選挙につきましては、選挙の種類に応じて、公職選挙法第5条の規定により、それぞれ管理する選挙管理委員会の議決を経て選挙期

日を決定しているところでございます。

2といたしまして、県内自治体の投票期日についてご説明申し上げます。県内自治体で日曜日以外の曜日を選挙期日として実施した自治体について茨城県の選挙管理委員会に確認をさせていただきましたところ、把握はしていないとのことでございましたが、北海道夕張郡長沼町では投票期日を月曜日として実施したとの情報をいただきましたので、長沼町の選挙管理委員会職員に確認をさせていただきました。令和5年2月28日に執行した長沼町議会議員選挙において、火曜日に投票を実施したとのことでございました。これは慣例により、昭和38年以降の町議会選挙において、2月28日を投票日としているとのことでございました。また、この28日の投票日が広く町民の皆様に認識されているということ、それと農業がとても盛んな地域ということで、2月の農閑期に投票期日を設定することがライフスタイルに合っているとのことでございました。この選挙結果につきましては、有権者8,833名、投票者数5,865名、投票率66.40%とのことでございます。

3といたしまして、当町の今後の取組についてご説明申し上げます。当町では、町内15か所に投票所を設置して選挙を執行しております。この中には、長田第3投票区として長田小学校を投票所としていることから、今後投票期日を日曜日以外とする場合には、投票所の指定を含めて調整、検討が必要になると思われます。地域の習慣やライフスタイルに合わせて工夫をすることで投票率の向上に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。

続きまして、3点目、高齢者の免許返納などにより、投票所へ行くことが難しい有権者への支援について伺いたいとのことご質問にお答えいたします。1として、高齢者の免許返納状況についてご説明申し上げます。高齢者による交通事故等の報道により、免許を返納する方が多くなっていると思われます。県の資料によりますと、県内の65歳以上の方の運転免許保有者数は4,554名で、うち昨年度、免許を返納された方は、県免許センターによりますと41名で、返納率は0.9%となっております。

2として、県内自治体の高齢者支援についてご説明申し上げます。令和4年12月11日執行、茨城県議会議員一般選挙では、坂東市、五霞町、境町選挙区では立候補者が選挙すべき議員の数を超えなかったことから無投票となりましたが、高萩市、日立市、常陸太田市、稲敷市、神栖市、小美玉市の6自治体では選挙が執行され、その中で移動式期日前投票所を設置されております。その中の高萩市選挙管理委員会に移動式期日前投票所の設置状況を確認させていただきましたところ、同選挙において12月4日に移動式期日前投票所を設置して、午前9時から午後4時までの間、山間部の集落センターなどに出向いて24名の有権者の投票が行われたとのことでございました。有権者の皆様からは、投票所に行くことが難しいので、この制度があり投票することができましたなどのご意見があったとのことで、高萩市選挙管理委員会では今後の執行される選挙においても移動式期日前投票所を設置する予定とのことでございました。

3として、当町の高齢者支援についてご説明申し上げます。当町では、令和4年7月10日に執行された参議院議員通常選挙において、投票者の利便性及び投票率のさらなる向上を図るため、バスを利用した移動式の期日前投票所を商業施設の駐車場内に設置させていただきました。令和4年6月24日金曜日の午後1時から午後6時まで投票所を設置させていただき、55名の有権者の皆様に投票をしていただきました。今後は、行政Ma a S等を活用して、

車両に期日前投票所の機能を搭載して、地域の公民館等で移動式期日前投票所を積極的に設置してまいりたいと考えております。あわせて、オンデマンドバスの利用も検討してまいりたいと考えております。

今後も引き続き町全体の投票率の向上を目指して、有権者の皆様の利便性や投票しやすい環境整備に配慮しながら適正に選挙執行に努めてまいりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

1点追加させていただきます。長沼町の町議会議員選挙、平成31年に執行されました選挙においての投票率は74.8%ということでございました。

先ほどの説明の中で、平成31年の長沼町議会議員選挙の投票率は74.8%、直近に行われました令和5年2月28日の同選挙は66.40%ということで若干投票率が落ちておりましたので、改めてご報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

斉藤政雄君。

○12番（斉藤政雄君） いろんな形で難しいとは思いますが、取りあえず境町でも、先ほど染谷直人君の質問にありましたように、これでかなりの人口が、特にPFIの場合は、森戸、猿島、静にあるわけではないし、町内と長田近辺が主でありますので、どうしても投票所みたいなのを増やすとか何かの対策をしていただいて、我々が選挙のときにはいろんな形が、近くまで行けるような形というのも考えてもらいたいと思いますけれども、その点についてだけ。

それからあと、多くの市町村でバスなどを使って近辺まで行って投票してもらうという、そういった事業をやっているところが多くなってきておりますので、その2点について境町ではどうかという形でご意見聞きたいなと思います。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

○町長（橋本正裕君） それでは、斉藤議員さんのご質問にお答えします。

本当に50年近くにわたり、斉藤議員、お疲れさまでございます。さらには、こうやって50年近くたっても一般質問するというので、こういう壇上に立つという行動が長く政治活動できる要因かなというふうに思っておりますので、町を代表してすばらしいことだなというふうに思っております。

逆に斉藤議員からのご提案の中に、ちょっと発見したことが1つあって、20歳から29歳の2,166人、この投票率が26.69なのですね。40代、50代、60代、70代は、非常に高い投票率なのですね。ということは、もしかするとここに重点を当てた政策を打ったほうが、2,100人いますから、30歳から39歳も33.25ですから2,400人、ここで4,500人いるわけですね。4,500人の方たちの投票率を上げるということをやるのが本当は一番いいのかなというふうに町としては考えております。ただ、先ほど斉藤議員が言われた80歳以上の2,000人、この方々は33に落ちていますから、これはやはり投票に行けない方があって落ちているのだと思うのですよね。なので引き続き、デマンドバスも入れましたので、設置場所については選挙管理委員会のほうで決めるという規約がございますので、選挙管理委員会のほうに、デマンドバスをどこに設置するか、どこを回すか、それも具体的に検討していただいて、そして決まり次第議会の皆様にも報告し、そして町民の皆様にも報告するような対策を取りたいというふうに思っております。

すので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

これで選挙についての質問を終わります。

次に、行政区加入についての質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長 島根行雄君登壇〕

○総務部長（島根行雄君） それでは、斉藤議員の2項目め、行政区加入についての、高齢者、1人世帯の加入状況についてとのご質問にお答えをいたします。

まず、1といたしまして、1人世帯の高齢者の行政区加入状況についてご説明を申し上げます。令和6年4月30日現在で常住人口世帯数1万418世帯中、70歳から74歳までの1人世帯は306世帯、うち行政区に加入されている世帯は177世帯で、高齢者世帯の加入率は57.8%となっております。同様に、75歳から79歳までの1人世帯は280世帯、うち行政区に加入されている世帯は180世帯で、加入率は64.3%となっております。80歳以上の1人世帯は606世帯、うち行政区に加入されている世帯は392世帯で、加入率は64.7%となっております。

次に、2といたしまして、町内全世帯の行政区加入状況についてご説明を申し上げます。令和6年4月30日現在で、常住人口世帯数1万418世帯中、5,975世帯が行政区に加入されており、加入率は64.5%でございます。令和5年同時期では、常住人口世帯数1万164世帯中、5,980世帯が行政区に加入されており、加入率は65.6%ございました。また、令和4年度同時期では、常住人口世帯数1万134世帯中、5,950世帯が行政区に加入されており、加入率は65.7%であったことから、この3年間の加入率は横ばいの状況でございます。

次に、3といたしまして、近隣自治体の状況についてご説明を申し上げます。1人世帯の高齢者の行政区加入状況について、近隣市町に確認をさせていただきましたところ、集計をしていないということでもございました。

また、全世帯における行政区加入世帯につきまして確認をさせていただきましたところ、古河市では、常住人口世帯数6万5,340世帯中、行政区に加入されている世帯は4万4,570世帯で加入率は68.2%とのことでございます。坂東市では、常住人口世帯数2万1,788世帯中、行政区に加入されている世帯は1万2,748世帯で加入率は58.5%とのことでございます。五霞町では、常住人口世帯数3,360世帯中、行政区に加入されている世帯は1,718世帯で加入率は51.1%とのことでございます。いずれの自治体も行政区に加入されている世帯は減少傾向で推移されているところでございました。どうぞよろしくお願ひをいたします。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

斉藤政雄君。

○12番（斉藤政雄君） 質問というわけではないですけども、高齢者の1人世帯、2人世帯も同じですけども、境町では、私が行政区の区長をやったときから10年がたちますけれども、赤い羽根とかいろんな形のものを集めると行政区で払うと大体1万円なのです。町は分かりませんけれども、長田、猿島、森戸、静地区聞きますと大体1万円ぐらいなものですから。ただ、みんなが声を上げているわけではないですけども、75歳、80歳になって1人、2人になったときに、赤い羽根とか福祉協議会とか、これを払うべきなのか、断るべきなのかと。ただ、先ほ

と言いましたように、我々世代の上の人たちが高齢者なものですから、そういった形で何だかんだ言っている人はいないのですけれども、ただ町は橋本町長になってからふるさと納税だ何だかんだいろんな形やっているけれども、高齢者に対してはちょっと声が少ないなという形なものですから、ぜひこの際町長のほうに、これから高齢者を迎える世帯が多くなってきます。特に、先ほども言いましたように、子供たちと我々が別個に生活するのがどんどん多くなるかなと思います。そういったときに、やはり年寄りにもちょっとした夢を与えてもいいのではないかと。たまたまこの前町場である人に会ったら、私93なのですから、その人元気でした。だけれども、その人は商売をやっていたために国民年金しかないのです。国民年金だと、私も国民年金の一人ですから、1か月3万5,000円らしいのです。93歳で1か月3万5,000円らしいのです。ですから、子育て支援、子供たちのお祝金というのでもいいかも分からないけれども、もしできれば境町でちょっとそういった形を見直すときが何らかの形で機会があったら議会のほうで取り上げてもらえないかなという声がありましたので、その点だけちょっと町長のほうにご意見があれば。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、斉藤議員のご質問にお答えしますが、介護保険料を8年間上げない努力をしたり、国民健康保険も、国が上げたのは別として、我々そこも抑制をしていたりとか、とにかく実は皆さん気づいていない部分でかなり使っているのです。本当は。実際に境町は、まだそれでも介護保険は坂東市や古河市より高いのです。2回上げていないのです。2回上げていないのだけれども、それでも高い。なので、やっぱりどこにどうやるか。例えば何でもかんでも、先ほども言ったように、議員の皆さんに分かってほしいのは、そんなに潤沢ですか。ふるさと納税、それだけ潤沢でどんどん積んでいますかと。我々コロナのときにはあれだけ配りましたよね。ほかの自治体は配っていないです。コロナのときも、国から来たお金全部配ってしまいました。プラス町で稼いだお金も配ってしまいました。そこまでやっているのですよね。だから給食センターもまだ建て替えていないし、45年たっているのですよね。建て替えなければならない。図書館だってまだできていない。いろんなところ適材適所でどこを先にやるかといって、今やっていることというのは人口を増やさないことには誰も支えられなくなってしまうわけですね。では、負担が上がる。どうなるか。夕張市がそうですね。夕張市になったときに、境町は180%超えていましたから、将来負担比率。僕が質問したときに、350パーの半分だから大丈夫だと言われました。でも、5か年計画つくったら5年後には財政調整基金というお金がなくなるという話でした。前の人も3年で立ち行かなくなるよと僕に言っていました。そういう現状だったわけですね。それを負担も上げずに前と変わらない生活ができるように今なっているわけですね。どこまで求めるかですね、皆さんが。今使ってしまった、結局、さっきも水道の話が出ましたよね。やらなければならないのはまだまだいっぱいあるのですよね。水害対策にも相当使っています。何十億も使っています、申し訳ないけれども。でも、水害対策やらないと、冠水対策やらないと、長井戸から町なかの人いつも冠水して、五差路もそうですね。逃げられないというわけです。もし利根川が切れるときに。そういうのを何とかしてくれといって、何十億も突っ込んでやっているのですよね。逆に言えば、介護保険料を上げてしまって、その分皆さんの負担を安くしましょうか、それはできるわけです。だからどれを選択するかですね。ばらまけば全ていいというわけではなくて、どこまでやるか。例えば健康づくりに僕らお金突

っ込んでいますよね。実は、この間参加された方、五、六十名いたという話聞いていますけれども、フレイル予防といって、全部体を元気にして医療費をかけないというところに国からお金引っ張ってきてやっているのですよね。そういう車も造りました。その車もこの間試験的に各地区回しましたがけれども、それで8割の人が眼科に通っていないですよね。眼科に通えない人のところに眼科の車を贈ったのです。そうしたら、8割の人が今すぐ病院行って、受診をしてやってくださいと。もう失明しますよというような話なわけですよね。そういうところも若い人にはもしかしたら関係ないかもしれない。でも、我々突っ込んでいるわけですよね。今度始まるデマンドもそうです。デマンドの交通は、猿島地区、長田地区、森戸地区、静地区にデマンドのバスを走らせるわけです。1億円も2億円もかかります。国からお金引っ張ってきました。自動運転バスは町なかだけで、しかも本数も少ないものですから、そういう人たちに対してどうにかして住み続けられるようにということで、そういうバス出すわけですよね。何億円も使っているのです。でも、実際には知らないわけです。それだけいろんなものにお金をかけて、適材適所でどれを先にやるかという。それは逆に議員の皆様方で、ばらまけというのだったらあるものばらまいてしまいますから、僕は、いいですよ。もう10万ずつばらまいてくれというのならばらまいてしまいますから。けれども、本当にそれがいいのかどうかという議論をしていただかないと、やっぱりこれから立ち行かないと思うのです。例えばここ5年はよくなったでしょう。でも、それから先どうなるのですかという話ですよね。先ほどの水道もそうですね。今は持っているけれども、その先どうするのですか。広域やるといっても、広域は10年後ですよねと。その間に壊れたときどうするのですか。70億必要ですよと。そのためにお金を積んで、7億しかなかった貯金を50億まで持ってきたわけですよね。この10年間で。環境センターもそうです。環境センターも、全部食いつぶしていたのを10億円ためました。毎年1億円積みました。そういうことをやっているわけですよね。だからあとどこに使うかというのは、我々もそうですけれども、議員さん方の判断もありますから、皆さんがここに使えるのだったら我々はそれはしっかりと皆さんとともにやっていきますので、やっぱり何でもかんでもというわけにはいかないということをしっかり説明しながら、さらにはこれだけ使っているのですよ、実はこれだけかかっているのですよ。最近、免許返納は多分減っていると思います。なぜかという、生活できないからですよね。車がなくて。そのために我々は、ブレーキの誤作動のものに補助金出したり、ドライブレコーダーに補助金出す、そんな自治体ないですよね。やっていますよね、そういうのも。防犯カメラもいっぱいつけています。泥棒が入らないようにとか、トラクター盗まれないために、捕まえるためにもやっています。やっぱりどこにどれだけかけるかというところが重要だというふうに思っていますので、それは皆さんと相談しながら何がいいのかと。最近、今日は寺山さんも来ていただいているのであれですけれども、高齢者に対する芸能人呼んでやっていないですよね。それがいいのか、それとも昨年なんかは高齢者に対して水を全部配ったのです。1本もらえるのかと思ったら1ケースだったので、みんな驚いたと。そういう話もありましたけれども、どこまでやるかというのをしっかりやらないと、10年先、20年先、30年先までもつような町をつくるのがやはり行政なものですから、そこは今ある中でどこまでやるかという部分をしっかりと議論しながらやっていきたいと思っていますので、やらないというわけではないです。やらないというわけではなくて、何が一番いいかと。年配の方に対して何がいいか。それを65歳以上ではなくて逆に50代以上ぐらいでやるとか、50歳代って多分何もないのです。若い人はあって、あと65歳以上にはこうい

うのをやるとかとあるのですけれども、ちょうど合間はないものですから、合間からこの世代に向けては適材適所でこういうのをやろうと。そういうことが逆に提案があれば我々も検討しながら、やっぱり出し続けるというのができないものですから、1回出すと今年はないのかと。来年もないのかということにもなりますので、そういう部分、多分デジタル化のために、さかエールクーポン、あれなんかもこれでは使えないという声があると思うのです。高齢者の皆さん、クーポンも紙で出してくれないかと。そういう声も多いのですけれども、両方やってみたのです。木村議員さんから紙も出してくれというので、紙もやりました。そうしたら、意外にデジタルが7割ぐらい使っていたというデータがあったものですからそれでやらせていただきました。なので、どういうふうに、例えばさっき聞きながら考えていたのは年代別に出しても面白いなど。例えば65歳以上は2割、3割とか、50から60は2割にするかとか、若い人はもうちょっと少なくてもいいかとか。若いのもかかるからあれですけれども、年代別にそういう出し方を変えても面白いのかなというふうにも思いますので、とにかくやらないわけではなく、今年もふるさと納税、昨日も説明したとおり、去年の3分の1になりますから、3分の1に意図してなりますので、その部分も考えながら、どこに使ってどういうふうにしていくかということを議員の皆さんとともに考えながら使っていきたいというふうには思っておりますので、やらないわけではないです。何が一番いいか、そこをぜひ議員の皆様とも検討しながら出していきたいというふうには思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（倉持 功君） 時間がないのであれですけれども、よろしいですか。

齊藤政雄議員。

○12番（齊藤政雄君） 町長、やらないわけではないという言葉が一番だと思いますので、終わります。

○議長（倉持 功君） これで齊藤政雄君の一般質問を終わります。